

2016年 12月 23日 第 94 号

【事務局】 青森自治研 立柳 作之進 Tel 090-2276-0477

〒030-0862 青森市大字大野字若宮 165-19

ホームページ <http://jichiken.kenrouren.jp> email: aomori_jichiken@kenrouren.jp

2016.10.10 第16回青森県自治体・地域づくりセミナー in 浪岡

**「農業を基幹産業とした合併しない町づくりに取り組んで」
～すべての町民にやさしい町づくりをめざして～**



今年のセミナーは、訓子府町長の菊池一春氏を招いて、はじめに

- 1) 「出逢いは永遠の薫り」(神田健策氏「 地域を駆け巡る若き研究者」)、それにしても「町長は忙しい」
- 2) 訓子府町民になって「町民に学び、町民と共に歩み、町民に育てられた」44年間
 - ① 社会教育職員として20年(町学童保育、公民館図書室、青年団体、公民館建設、学習・文化活動ETC)
 - ② 自治体職員として15年(商店街近代化と街並み整備、高齢者福祉と介護保険制度、ごみ処理・分別と有料化ETC)
 - ③ オホーツク社会教育研究会設立とオホーツク地域自治研究所設立に参加と北海道健康学習ネットワーク設立から休会)
 1. 2007年4月町長選立候補の決断と訓子府町長の誕生まで
 - 1) 平成の合併と訓子府町の未来「住民投票・アンケート調査結果と行政と町民意識のかい離」
 - 2) 住民自治を基調とした地方自治を目指すのか晴耕雨読の年金生活か

- 3) 私への警鐘「長野県から宮崎県へ試練・修行の旅」
 - ① 泰阜村・松島村長「北海道が変われば日本が変わる」
 - ② 阿智村・岡庭村長「選挙は清く正しい理論だけでは勝てない」
 - ③ 安曇野市・池上洋通氏「町づくりと産業、芸術・文化のバランス」
 - ④ 宮崎県綾町郷田町長「結の心・夜逃げの町」から前田町長「有機農業・自治公民館」
- 4) 多くの町民や仲間から励まされた選挙戦と日本国憲法への挑戦
- 5) 2007年5月1日・超過度のストレスと町政運営
 - ① 選挙戦は終わった「町民本位の仕事を」(生徒手帳並みの町長訓示)
 - ② 業者からの「一切の中元・歳暮は受け取りません」と入札制度改革
 - ③ 職員採用と日本国憲法順守、新入職員研修
 - ④ 町政執行方針に掲げる「日本国憲法と地方自治法に基づき」考え方
 - ⑤ めまいと吐き気からの脱出(暴風雨と雹被害、北見市の大規模断水)
 - ⑥ 町職員から町長への意識改革を求められて「支えあい、励ましあい、高めあう」
2. マニフェストに掲げた公約実現と幾多の試練
 - 1) 財政再建・健全化への挑戦
 - ① 夕張問題に学ぶこと
 - ② 副町長・教育長の配置問題と町長・職員の給料削減
 - ③ 大和田一紘氏を迎えて3年間「財政分析講座」の開催と熱い議論
 - ④ 宮崎県綾町との財政比較「過度の設備投資と公債費(借金)依存
 - 2) ふるさと銀河線廃止と足の確保に向けて
 - ① 迫られた「可能であれば銀河線存続」と「レール撤去・南北縦断道路」
 - ② 日本一合併が進んだ広島県デマンドタクシーの試行
 - ③ 高齢者(75歳以上)タクシーサービス(530円の基本料金で)
 - ④ 高齢者・高校生対象の路線バスサービス(北見・置戸300円)
 - ⑤ JR北海道、JR貨物のローカル線廃止問題と北海道の交通体系議論、町民の足を確保

3)町の将来は町民の総意で決定する

- ①平成の合併は町民に何をもちたか
- ②町づくりアドバイザーに酪農学園大学河合博司氏へ要請
- ③住民自治の仕組みづくりと自治基本条例(町民・議会・行政の責任と役割)
- ④お任せ民主主義の克服(町づくり推進会議での参加から参画へ)
- ⑤町議会の変化と議会活性化委員会、町民報告会3. すべての町民にやさしい町づくりをかかげて

- 1)子どもの医療費無料化
- 2)乳幼児をもつ親たちの子育て支援センター開設
- 3)放課後の生活を豊かに児童館「ゆめゆめ館」スタート
- 4)道立盲・ろう学校通学支援制度と春・夏・冬休みの町内生活支援
- 5) 幼・保・小中学校への町独自の支援員・講師の配置
- 6) 認定こども園(幼保連携型)「わくわく園」の開設と運営
- ①幼稚園と保育所の壁を越えて「すべての子どもが最良の環境で」
- ②町長の思いと職員間議論、研修の積み重ねと先進地視察
- ③建設設計会社7社によるプロポーザル方式、60人審査員による設計審査
- ④床材は高知県津野町産の「檜」と柱・梁材は町有林カラマツ2000本、遊具はスウェーデン産の木製遊具
- ⑤地元素材を生かした完全給食とオケクラフトの器
- ⑥冷暖房は地中熱と太陽熱、ヒートポンプ
- ⑦こども未来課新設(保健師と管理栄養士の配置と臨時保育士の正職員化)
- ⑧すべての子どもがわくわく園へ(保育料の軽減と広域入所、北見市民が訓子府に職場がある場合の対応)
- 7)北海道立訓子府高校への支援(通学・入学・在学・進学・修学旅行)
- 8)住環境リホーム制度、空き家バンクと住宅改修、店舗改修制度

- 9) 元気補助金(個人町民税1%活用)で町民の自主活動応援、盛り上がりを見せる様々な住民活動
- 10) 無利子・無担保・無連帯保証人の生活・医療貸付制度
- 11) 福祉灯油5,000円→7,000円→10,000円と広がる対象者
- 12) 特別養護老人ホーム50床→10床増床・個室化、ショートステイ、デイサービス拡充
- 13) 民間の協力を得て身体障がい者多機能型グループホーム建設に向けて
- ①福祉友の会の運動と挫折した療護施設誘致
- ②タンポポ親の会からNPO法人きらきら本舗への支援(役場庁舎への作業所・食堂開設)
- ③高齢化する親と障がい者
4. 農業粗生産額130億円を誇る農業を基幹産業とする町づくり
- 1) 生産者と北海道、町、農協が一体となって第4期農業基盤整備事業推進
- ①地域ごとの期成会設立と事業と事業費の積み上げ(10年間で150億円程度「暗渠、明渠、道路等整備)
- ②町長と土地改良区理事長兼務(複合水利権の確保、リールマシーン導入、頭首工・樋門管理、用排水路整備)
- ③担い手対策支援(後継者の結婚支援、相談員制度)
- ④町営牧場の運営
- 2) 新規就農者支援事業
- ①新たに農業を志す新規就農者へ5年間の支援制度(財政的支援と実習制度)
- ②後継者への就農支援(小売商業含む)
- ③北海道農業試験場研究職員との合同研修と試験研究
- 3) 日本型直接支払制度や畜産クラスター事業、産地パワーアップ事業など国北海道、町、生産者と連携して各種支援

5. 町民目線で町民の声に耳を傾けて

- 1)朝夕の通勤はウオーキングを心がけて
- 2)町長就任以来休まず続けている月に一度の「夜間町長室」の開催
- 3)町のホームページ「町長室」開設と町民とのメール交換
- 4)青空公民館や京都の炉端懇談会に学んで→青空町長室→車座トーク
- 5)地域に出かける「地域担当職員」と町職員の意識改革6. 町づくりと行政、議会の関係について

1)耐震診断結果とスポーツセンター建設に向けて

- ①日本一安全の町「IS 値0.04震度6強で倒壊の恐れあり」
- ②「町民への説明不足」と「建て替えは不要」
- ③「認定こども園で12億円を使い、今度はスポーツセンター建て替えて町の財政は大丈夫か」
- ④町民の疑問に答える車座トークや団体・サークルへの説明会開催
- ⑤「身の丈にあった施設を」「この機会だから全国大会を誘致できる施設を」

2) 東京渋谷区国立旧こどもの城廃止と郷土出身彫刻家作品の移設をめぐって

- ①移設費1千万円をめぐって移設の是非と説明不足
- ②武蔵美大と連携したパブリックアート構想を推進
- ③芸術・文化活動と町づくり

3)台風9号、11号10号被害「樹齢300年の榆の樹倒壊」「農作物、表土100ヘクタール流亡」「家屋床下浸水、河川、道路等40か所損」損傷をめぐって

- ①町単独補助「40万円以上の復旧工事の3分の1補助、100万円限度額」(予算概算措置700万円)を事前通知
- ②北海道開発局、北海道建設部へ生産者と共に要請
- ③JAきたみらいへ生産者を励まし続けること

4)新たな教育委員会制度をめぐって

- ①犬山市の学カテスト問題や大津市のいじめ問題で問われる教育委員会のあり方
- ②選挙で選ばれた首長が教育委員会に遠慮していいのか

- ③教育行政組織及び運営に関する法律改正(首長が教育長任命、教育長が教育委員長を兼ねて責任者)
- ④訓子府方式による挑戦(代表教育委員を教育委員で互選、議会に説明員として出席)
- ⑤議会は代表教育委員出席に反対(代表教育委員は教育長職務代理者)
- ⑥議会での説明員出席は議長の権限、代表教育委員制度は町長の権限

■まとめにかえて

1)憲法改正と道州制、新たな市町村合併を考える

- ①平成の合併は何をもたらしたか
- ②「大きいことは良いことだ」の幻想と呪縛からの解放を
- ③類似する「1万に以下の町村は窓口業務だけになる」(西尾試案)から「地方創生」「農村、地方消滅」(増田レポート)

2)TPP参加と地域農業、訓子府の未来を考える

- ①東京大学鈴木宣宏教授、経済評論家内橋克人氏、北海道大学大田原高昭名誉教授、東山寛准教授を招いて
- ②北海道農業ジャーナリストの会編「北海道の守り方」に執筆して
- ③役場庁舎正門に掲げた縦断幕「TPP断固反対」を貫いて

3)全国の小さいから輝く自治体と住民との連携を求めて

- ①職員とともに「全国小さくても輝く自治体フォーラム」へ参加(北海道東川町→岡山県奈義町→大分県九重町→高知県馬路村→鳥取県岩美町)
- ②開拓120年記念事業は町民運動会復活と日本ハムファイターズとの交流(名護キャンプで玉ねぎとジャガイモ1トンをとどけて)
- ③稲嶺名護市長を訪ねて「市町村長の仕事は命がけ」

上記の内容で熱弁をふるっていただきました。

2016.10.10に、浪岡町の中央公民館で開催されました。理事長の神田からの開催趣旨の説明と、なぜ浪岡での開催となったのかを、ぜひ、下記のURLから肉声をお聞きいただければと思います。

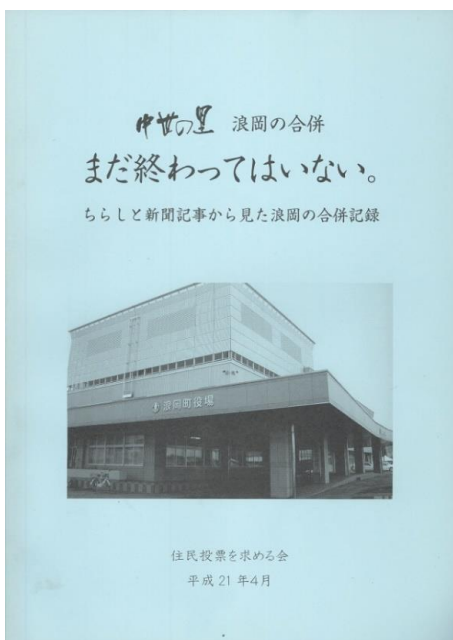
<https://www.youtube.com/watch?v=sjcQ5nos-fE>

(または、「青森県地域・自治体問題研究所」と、検索するか、
自治研HP <http://jichiken.kenroure.jp/>
とアドレス入力し、画像をクリックしてご覧ください。)

パソコンから視聴できない方には、実費でDVDを用意したいと思います。遠慮なくお申し付けください。

また、今までの数々の学習会も保存してありますので、遠慮なくご相談ください。

セミナーの動画の後半部分は、県議古村氏の合併問題を検証したいという思いのこもった内容となっています。その一端を下記に記しました。



記録集は左記のとおり2005年の合併から、4年後に発行されました。貴重な記録集となっています。

青森自治研は貴重な記録集に終わらせていいのかと、合併問題の検証に取り組むことになりました。

検証は多岐な分野に及ぶこととなります。一朝一夕でできることはありません。多くの方の参加を呼び掛けたいと思います。

さしあたって、2月の夜に古村氏を囲む会を開きたいということになりました。

古村氏からは快諾をいただき、下記のとおり開催します。

記

日 時 2017年 2月 9日(木) 17:30～19:30
場 所 青森市新町1-3-7 アウガ5F 企画ワーク室3.4

編集後記

青森自治研に参加いただいている個人会員からの声や、県内各界の運動も旺盛に取り組みられていることから、それらの情報も紹介していきたいと思います。

「市民の血税の無駄遣い、等しくまんべんなく負担を、自助・共助・公助、財政破たん……………」いずれも為政者が好んで使うマインドコントロールだと思えば合点がいく。

今はそれが功を奏している時代なのか。

いろんな資料は公開されている。例えば、地方交付税(金)がいかに減らされてきたかとか、所得税累進税率がどのような変遷を辿ったのかとか、税体系がどのように変えられて今の格差に至ったのかなどは、調べようと思えばいくらでも出てくる。

今、税に全く関係のない(課税対象でもなければ、配偶者や扶養控除対象でもない)人たちが、2691万人(2015年データ)いるという現実には驚きを隠せない。

事務局 追記

当会の会計年度は、6. 1～5. 31です。これまで納入いただいた方以外の方には払込取扱票用紙(過去の分を含む)を同封させていただきました。

自治研活動に関わってまだ3年目の新参者ですが、長く行政に携わったものとして、当会は運動体になるべきと思っています。そのためにはある程度の予算の裏付けが必要となってきます。是非、ご理解いただき早期納入にご協力、お願いいたします。

<会員専用、パスワード必要HP>

設立当初からの会報を掲載したHPは既に公開しております。それプラス理事会を始めとした、当会の動きがわかるホームページをできるだけ早く作りたくと思っています。お待ちください。

ご希望の方には、FAX通信も行っていきたいと思っています。

メールアドレスや、FAX番号の登録にもご協力ください。一面にHPアドレスとメールアドレスを掲載しています。よろしく申し上げます。